

## 司祭になった小暮さん

主任司祭 吉池 好高

去る9月22日秋分の日、四谷のイグナチオ教会で、私たちの「小暮さん」の司祭叙階式が行われました。イグナチオ教会の大きな聖堂を埋め尽くした大勢の参列者の中に、高円寺教会から参列された方のお顔を見つけた時には、なぜか、とても嬉しくホッとした気持ちになりました。見知らぬ参列者ばかりの、叙階式の圧倒的な雰囲気の中で、「ああ、これは、私たちの小暮さんの叙階式なのだ」ということが実感できたからです。叙階式という普段ほとんど接する機会のない秘跡の儀式が、小暮さんが司祭になったことによって、こんなにも多くの人々を巻き込んで、私たちの目の前で繰り広げられ、その秘跡の恵みを実感することが出来たことを「司祭になった小暮さん」に、あらためて感謝したいと思います。

叙階式の翌日の9月23日の日曜日には、司祭になったばかりの小暮さんが、私たちの高円寺教会で初ミサをささげてくださいました。小暮さんの叙階式のために、はるばる山口から駆けつけた柴田神父様も小暮さんと一緒にミサをささげてくださいました。柴田神父様の後を受けて二年間、高円寺教会に通われて御奉仕してくださった小暮さんにあらためて感謝したいと思います。このようなご縁がなかったら、高円寺教会の皆で小暮神父様の初ミサをお祝いすることもなかったことでしょう。柴田神父様と小暮神父様のおかげで、司祭召命減少の教会の現状の中で、私たちは二年続けて新司祭の初ミサに参加できる恵みをいただくことが出来たのです。初ミサは、初めてミサを司式する新司祭にとってだけではなく、そのミサに参加する者たちにとっても「特別」です。まして、そのミサをささげる司祭が、参加する私たちにとって馴染み深い新司祭である場合には殊更です。小暮神父様も柴田神父様もサラリーマンとしての生活の中で召命を感じ、カトリックではない御両親を残して司祭の道に進まれたことをお話してくださっていました。小暮新司祭がささげられた初ミサは、ミサとはどのようなものであるのかということ、あらためて私たちの心に深く刻み付けてくれました。